



磐田南高校同窓会だより

No. 29

静岡県立磐田南高等学校同窓会 発行

発行責任者/同窓会長 山下六機
同窓会事務局/〒438-8686 静岡県磐田市見付3084 TEL.0538-32-7286 FAX.0538-37-8375
ホームページ/ <http://www.iwatanet.com/bannan/>



実行委員長 高38回 太田好洋

「同窓会の仲間入りができた気がします」

同窓会本部役員の皆様はじめ、多くの皆様のご協力に



懇親会は中3回の96才
山内さんの乾杯の音頭で

贈る言葉Take it easyをかざし乾杯



あの夏の感動をもう一度

同窓会総会パンフレット

第81回同窓会総会開催される

八月十九日、残暑の厳しい中、磐田グランドホテルで盛大に催されました。卒業七十周年となる見中十一回生の十六名は、今年米寿を迎え、お元気な姿で記念品を授与されました。代表して挨拶された柴田さんは、戦争が激しくなつてゆく時代に学び、昭和十二年に百四十六名が卒業し、四分の一に当たる三十六名が戦場で命を失った。生き残った我々は運が良かったのではない。戦死した級友が身代わりになってくれたのだ。と見中・磐南の伝統の重さと命の尊さについてお話しされ、感銘を受けました。
(高橋)

より無事、第81回の総会を終えることができました。本当にありがとうございました。

諸先輩方の例にもれることなく、我々38回生も準備と当日の運営が大変だった分、恩師を囲む会は大いに盛り上がりました。この機会に38回生の同窓会を開いていくことも決まりました。

総会幹事という大役を果たさせていただき、これでやっと正式に？見中・磐南同窓会の仲間入りができたのではないかと感じています。

このような貴重な体験をさせていただいた事に感謝すると同時に、今後も同窓会運営に微力ながら協力していきたいと考えております。よろしくお願いたします。



卒業70周年の見中11回生



卒業50周年の南高10回生



卒業60周年の見中21回生

同窓会会長としてこの1年を振り返りかえって



日頃は同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、誠に有り難う御座います。早いもので、昨夏同窓会のお手伝いをさせて頂いた事となつて以来、もう1年経過してしまいました。この間歴代会長さん、役員の方々、会員の皆様方のお助けを頂いて何とか努めさせて頂いていただく事が出来ました事、大変有り難く思っております。多々ご迷惑をお掛けした事も有った事と思いますが、不徳の致す所とご容赦いただきたいと思います。

さて、はくま会館も建築以来大分経過し、各所に汚れや老朽化が進み一部危険な箇所も見られましたので補修等を行いました。外壁洗浄も行き、すっかり綺麗になりました。また、会議室の机、椅子も大分傷んで参りましたので、新しく致しました。是非一度ご覧になって下さい。

マウンテンビュー高校との交流事業も順調に推移し、この3月には在校生と共に総勢30名にて訪問し、交流して参りました。アメリカの家庭に入り、教室に入って生の生活体験をして参りました。授業等については、当初予想した状況とは大きく異なり、カルチャーショックを受けたほどです。

5年毎に発行しております同窓会員名簿ですが、2010年度版発行の準備をする時期となって参りました。ご承知のとおり個人情報保護法の関係もあって、従来通りの内容豊富な発行は今後大変難しいのではないかと懸念しております。この件につきましては、皆さんのご意見を伺いながら、方向を決めて参りたいと思っております。

各支部の活動も、それぞれ支部の特徴を生かした活動をされており、充実した体制となって参りました。市町村合併に伴って支部の名称やエリア等必要ではないかと思っております。終わりに会員皆様方の益々のご健勝、「多幸と母校の益々のご発展を祈念申し上げますと共に、同窓会への一層のご支援ご協力をお願い致しましてご挨拶とさせていただきます。

同窓会長 高9回 山下六機

磐南の良さを先輩から後輩に



同窓会の皆様には、日頃から学校教育活動に御理解御協力をお願いいたします。

平成19年度は全日制1005人、定時制127人の生徒と、78人の教職員でスタートし、順調に経過しております。申し遅れましたが4月に着任しました山下です。宜しくお願いたします。

「今日は磐南が私の誇り、明日は私が磐南の誇り」が、充実感を得る際の、貴重な背景になっていると思えます。数々の集団活動で一人ひとりが特徴を發揮し、最善をつくし

の諸活動を先輩から後輩に受け継ぐ時期で、校風や伝統について語ることは生徒の意識のなかに思いつく共通の願い、理想について語ることであり、学校生活における生きがいについて考えることもなります。先輩たちは理想や生きがいをいかに体験し、実現し、意味ある人生を切り開いたかを追憶して、学校の歴史的な時間のなかでの連続感、連帯感を自覚してほしいと思えます。

「今日は磐南が私の誇り、明日は私が磐南の誇り」が、充実感を得る際の、貴重な背景になっていると思えます。数々の集団活動で一人ひとりが特徴を發揮し、最善をつくし

磐南南高等学校校長 山下峰雄

て協調と連帯のもと、誇りを実現し、お互いに感動します。生徒同士、そして教員をも巻き込んだ磐南全体としての一体感が「我々の意識」として、今後を伝統として強く生き続けていくものと思えます。

学校は教育理念が反映しない単なる雰囲気は校風でも伝統でもありません。同窓会の皆様、在校生は諸先輩を良き手本としています。その意味でも真の校風、伝統を更に後輩に指導していただけたら幸甚であります。また母校は母親や故郷とともに皆様の心のよりどころでもあると思えます。いつまでも本校同窓生として母校を愛し、後輩を慈しみ下さい。皆様の益々の御活躍と同窓会の御発展を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

事務局より

八月十九日に、本年度の総会が多数の皆様のご参集により盛大に開催されました。準備および当日の運営に苦勞された三十八回生の皆様に感謝申し上げます。

総会においては、昨年度の報告および今年度の計画などすべての会務、事業事項が承認されました。また、同窓会のホームページがリニューアルされました。二、三年の総会のボスターや各年次当番の行った事業内容、さらには同窓会だよりなど内容も盛りだくさんとなっております。ぜひご覧になってください。

次に母校の近況を報告いたします。スーパーサイエンスハイスクール事業は二期二年目として、教員生徒ともご研究を継続しているところです。また秋には、京都大学の松沢哲郎先生を招き、記念講演会が予定されています。部活動では運動、文化のいずれの部門においても多くの成果がありました。運動分野では陸上部・水泳部の総体東海大会・全国大会出場、弓道部の総体東海大会出場、文化分野では常連のビジュアル部、地学部は全国高等学校総合文化祭参加に加え、図書部の全国大会出場など華々しい成果を挙げています。また大学の進学成績においても、良好な成績を堅持しています。県下有数の進学校として、また文武両道実践として県内外に評価されております。

今春の教職員の人事異動で太田一夫校長がご勇退、鈴木啓之教頭(高二七)が横須賀高校長として、小出和美教頭は浜松西高校に、平松健一事務局長は浜松養護学校にそれぞれご転されました。校内幹事としては三毛良介先生(高二二)が勇退され、鈴木智子先生(高二三)が磐南農業高校に栄転されました。これまでの熱心な指導に感謝申し上げます。新たに着任された山下峰雄校長のリーダーシップの下、社会が期待する逞しいリーダーの育成に努めてまいります。

今後とも同窓会会員の皆様、母校へのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。(高木純一)

十九年度慰霊祭に参列して

慰霊祭実行委員長 高29回 森上達幸



八月十九日午前十時より、はくま会館にて、平成十九年度の慰霊祭が執り行われた。同窓会から連絡がなれば、正

真、慰霊祭が毎年開催されることも慰霊碑の存在も知らなかった。同窓会だよりに毎年その記事が載っていたらうに、気が付かなかった。担当年次になるまでほとんどの卒業生が同様に気が付かずにいることだろう。「案内」もろくに読まずに参加したのだが、参加して驚いた。

それは他校にはない、磐南の素晴らしい伝統だった。担当年次の物故者のご遺族を招待し、同級生が彼らに言葉を送る。列席された加藤先生によると、他年次より物故者の数ははるかに少ないとのことであったが、そうはいっても、いまだ学年期のお子さん、まだまだお元気な若いご両親の姿を見ると、胸がしめつけられるようであった。

無論、その年、亡くなられた方々の慰霊も行われた。見中、磐南という一つの共通点で無宗教で行われる慰霊祭。家族以外の誰かが、いつか自分を偲んでくれる式典があることは、何と心慰められることだろう。青く青く広がる空の下、山桃の木に抱かれるようにひっそりと建つ慰霊碑の姿が深く心に刻み込まれている。

会場が狭いために担当年次全員が参列できるわけではないが、機会があれば、ぜひ参加されることをお勧めする。磐南卒業生だけが参加できる素晴らしい伝統の式典であるのだから。

高29回 丸尾恵子筆

同窓生からの便り

高七回年次同窓会

毎年の年次同窓会で何よりも楽しみにするのは、去年の顔がまた今年も揃うことであり、また何十年ぶりかで懐かしい顔に出会うことである。今年も十一月三日（毎年十一月の第一土曜日）に開催することになっている。もう二十年以上続いている集いである。

年次同窓会の集いの発端は、本部同窓会総会の当番年次を無事終えた早々に、次なるお役目としての卒業四十周年そして五十周年記念事業同窓会資金援助の拠出金確保

保を見越して、年次同窓会としての軍資金づくりに取りかかることにした。

最初は少人数の有志での呼びかけであったが、年次同窓会の集いを毎年開催する方向づけと同窓生の多大な寄付金の協力を得ることが実現した。そして、お役目もおえた後の資金を年次同窓会の運営財源にしている。

年次同窓会として今日、そこそこの資金を保有していること、そして今後も運営が円



滑にいくように会計担当、会計監査担当もきちつと置き、相談役、クラス委員と本部同窓会評議員とで役員会を構成し事にあたっては、今後の課題として、お互い年を重ねての世話役の継承、そしてややマンネリ化した年次同窓会の集いをどう工夫するかである。魅力ある集いにしたいものである。

高七回 大庭義保

復刻14HR特別HR

慰霊祭担当の年（平成14年）に、昭和46年当時、1年を担任いただいた加藤正己先生から35年前の14HRのホームムービー日誌を手渡されました。それは黒いといじもと厚紙で綴られた、ナント1500ページ余に及ぶ私たちの青き日々でした。



学校では2年間保存し焼却処分するというルールがあったようですが、加藤先生は学校に申し出て自身で保管され、当時のそのままの状態を手渡していただきました。

そこで市川篤君の半年以上の尽力により、原本を丁寧に「コピー」厚さ約5mmの上下巻（まるで百科事典のような）のHR日誌が2セットだけ製本でき、これをきつかけに、特別HRを開催したので、（すでに、昨年9月23日のことです）

この日は同窓会というより、35年前の「青臭い」「甘い」考えを再び読み返す場で、何とも恥ずかしくもあり、恐々とページを繰っていきました。読み進める中で、あまりにも真剣に、素直に書いていく15〜16歳の私たちが自身に出会い、よく考えているな、今で

もあの頃の考えが生きているなど、自ら感心してしまうこともありました。このまま封印したほうがいいのではとの意見も出るほど赤裸々な思いが刻まれているページもありましたが、今でも当時の14HRメンバー限定で回覧しています。

復刻に際し、恩師の加藤先生からいただいたメッセージです。『「日誌」ですからクラスの一日の出来事を記録するものなのに、生徒はまるで自分の「日記」のように個性豊かな心情を吐露しているのです。この「日誌」には生徒個々人の青春の一言が記録されています。感動しました。貴重な心の記念碑（コメント）です。』

（高26回） 三浦正人

支部だより

関東支部

関東支部長 近藤 彰（高11回）

「同窓会はマンネリだ。」その通り。しかし、世代間を統合する理念は「親睦」だ。この理念は単純ながら不変の価値がある。当支部は熱い想い、創意と手作りにより親睦を強化し、どうせなら偉大なマンネリとなるよう挑戦している。活動はそれだけ？否。世代という縦糸と敬と愛という横糸を織り込んで新しい価値の創造を目指している。相互扶助、教養の向上、学生支援、多面的広報戦略など様々なしなげを展開している。そのためには足元を固める必要があり、当支部が組織的に機能する事業体となるよう規約の全面改正、財政再建計画の策定を総会で決めるべく準備中である。

静岡支部

静岡支部長 小木喜憲（高17回）

静岡支部は、静岡市を中心に県中部地域に在住または在勤されている同窓生約400名で構成されており、支部例会開催の連絡には、可能な限りを心掛けておりますが、会員登録もれもあり、年々増加する新卒会員や転居会員の情報把握は困難をきわめております。

同窓会例会は、「二〇数年出席会員の顔ぶれや人数が固定してきています。大先輩から新卒会員が一同に会する例会に対して、若年会員が敬遠している傾向は、当静岡支部だけではないと推察され、同窓会のもつ課題としてとらえております。

袋井支部

袋井支部長 久野亮一（高11回）

今年、第三回袋井支部総会を七月二十八日（土）に袋井市総合センターで開催し、楽しい一時を過ごすことができました。

山下同窓会長、山下学校長をはじめ、元同窓会長江間先輩をお招きすることができ、一二十六名の方々が一同に会することができました。

また、磐南の校内幹事を務めた、現在中国で教鞭をとられている伊藤修二さん（高15回）に、「私がかたで感じた中国」との題でお話をさせていただきました。

懇親会も、賑やかなうちに和気藹々と先輩後輩と会話が弾み、校歌と共に袋井支部の会員の元氣な姿が輝いていました。

皆様からの御意見・年次報告も合わせてご報告ください。

磐田市見付3084
FAX 0538 37 8375
静岡県立磐田南高同窓会

歴代校長先生が御逝去されました

第八代 中島常男様
第十四代 長藤利夫様

謹んで御冥福をお祈りいたします
台筆

原子力の研究に携わって36年、その後一般の方への「原子力知識の普及事業」に関わることになりました。この間、原子力、特に「放射線」に対する認識に、所謂専門家と一般の方とに若干のズレがあるように感じました。



放射線はお化け?

高16回 大杉 俊隆

「放射線についてどのような印象をお持ちですか」と聞くと、多くの方から「怖いもの」、「得体の知れないもの」との返事が返ってきます。特に、私たちの普段の生活に於いても自然放射線に曝されているといった説明をするとき、尚更気味の悪そうな雰囲気となります。これらの話から、幼い頃に聞かされた「お化け」の話を思い出しました。お化けが何故怖いのか。もし、お化けとの間に次のような「会話」、「交渉」が成立するとしたら、大分印象が変わってくものではないでしょうか。

- ・(玄関で)ピンポン
- ・「何方ですか」「お化けです」
- ・「御用件は」「御挨拶に……」
- ・「結構です。帰して下さい」
- ・「これで済めば、怖くない。」

日本の電力の三分の一が原子力で生産される一方、色々な種類の放射線についてそれらの性質が良く調べられ、医学、農業、工業等の幅広い分野で私達の生活に利用されています。利用すると云うことは、管理が出来ること云うことです。此処が放射

線とお化けとの違いです。勿論、「管理が出来る」と云うことと「安全である」と云うこととは、少し距離があります。「車と人がぶつかればどうなるか」は皆さん良く御存知です。この場合は「交通規則」等が定められ、車同士、車と人との直接的な接触を起こさないようなシステムとなっています。しかし、残念ながら事故は零にはなっていないですね。それでも、車とお化けを一緒にする人は居ないでしょう。原子力、放射線も日常生活の一部となりつつあります。これらを特別視するのはなく、他の技術と同様な視点で、「有益性」と「危険度」のバランスを保つ適切なシステムの構築が今後の課題でしょう。

出版界で40年

株式会社
イ・エックスコミュニケーションズ
代表取締役会長 兼 社長
高15回 前嶋 孟

昭和43年、関西に本社がある出版社に就職、それが私の出版界での40年のスタートになりました。大学時代は学生新聞の発行にかかわった。当時は沖縄返還、東京オリンピックの開催など、戦後の政治・経済の課題処理がされた転換期でもありました。私達も徹夜で論争し記事を書いたものです。そんな訳で、就職は何の疑問もなく活字にまつわる仕事をしようとして出版社に入社しました。法律全集の編集を皮切りに、書籍の企画、全国書店を訪問する営業、そして数年後独立して小出版社の経営と、

現在、日本には出版社が四千社、新刊本は、年間八万点以上発行されています。世界でも有数の出版大国となっています。近年は更に自費出版もブームとなり発行点数は年々増加の一途です。本の発行形態も以前とは様変わりとなって来ました。雑誌が紙でなく電子雑誌になったり、歴大な事柄を収容できる電子書籍が辞書・辞典などにとつて代わろうとしています。またケータイ小説という新ジャンルが出来たり、ブログで日記・エッセイが手軽に発表できるようになり、その一部が書籍として本屋の店頭と並

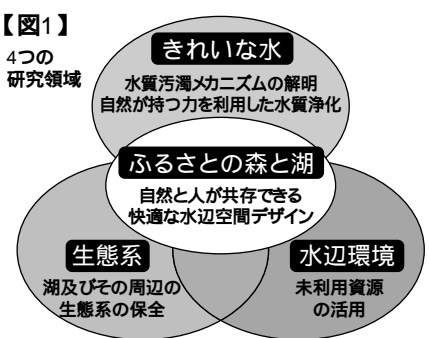
快適空間「佐鳴湖」の研究に挑む

静岡県戦略課題研究 研究統括マネージャー 高20回 芥川知孝



静岡県では創知協働を基本理念に、佐鳴湖の快適な空間を形成し、水質全国ワーストワンからの脱却という課題を平成17年に設定した。その研究の委嘱を受け、環境課題では湖岸景観を含めた総合的な視点、地域全体の問題として有機的な取り組みが不可欠であることから、4つの研究領域【図1】を設定、県内5大学、5つの県公設試験場を中心に産学官民の「知」を結集する研究を入

ターゲットさせた。佐鳴湖は昭和35年ころ、浜松市の発展、生活スタイルの変化による影響を受け水質が悪化し始めたと推定される。それまでの湖は水田の広がる緑豊かな自然に囲まれていたが、きわめて繊細な湖であったことを認識させられる。市民参加によるワークショップでの「自然と私たちの暮らしの都市型共生モデル空間」というコンセプトは、佐鳴湖は周辺の森を含め重要な景観資産であり、貴重種も確認された豊かな生態系、自然環境を守る必要性が意識されている。



環境改善のための湖の浚渫、下水道の整備等の対策にもかかわらず、湖内での窒素やリンの蓄積、周辺の工場、家庭からの流入も依然大きく、汚染の指数(COD)も高い値を示している。しかも歴

ぶなどIT技術の進歩が出版の多様化をもたらしました。誰でも自由に表現できるようになった一方で、文字・活字の乱れが出版界で話題となって来ました。以前は編集者が生原稿を整理・校閲して、読者がきっちり理解できるように本作りがされてきました。今は残念ながらかなり雑な本も出版されています。

現役として出版社で働く時間が残り少なくなってきました。IT化がどんどん進み、本を作る技術が発達しても、文字・活字のもつ重みを本で表現し、守っていきたいと思います。それが私にとって出版界での残された仕事だと思っています。

史的、季節などの環境変化により植物プランクトンの種類は大きく変化している事も明らかになってきた。

快適空間「佐鳴湖」の実現に向けては、景観、自然、生物、生活など多くの要素を考慮し、地域との共生、自主自立、持続可能な産学官民の連携活動を実践する「佐鳴湖モデル」の構築に取り組んでいます。

「創知協働」 人々が生み出す知的価値を重視した知の創造と、様々な分野の人たちが力を合せて活動すること。



見付の赤松家記念館

近代的造船学を導入して日本海軍の基礎を築き、明治期に磐田原茶園を開拓した赤松則良男爵（一八四一〜一九二〇）の屋敷跡である。

則良は、祖父である播磨の国の豪族赤松泰助良則の姓を継いだ。19歳で日米通商条約批准の為、勝海舟らと咸臨丸で渡米。その後、オランダへ留学し、造船技術等を学んだ。幕府崩壊後磐田原茶園の開拓に取り組みながら海軍の要職を歴任し、爵位を授与された。明治14年に本籍を見付に移す。

則良の子供は17人。長女登志子は森鷗外と結婚し、長男於菟が28歳で亡くなった。三代目当主照彦は、初代市長として四期16年に渡り磐田市のために尽力した人物で、覚えておられる方

も多いことだろう。特に磐田原一円への水道敷設は住民の悲願であったが、困難な工事の末昭和33年に完成した。

さて、平成16年に磐田市赤松家記念館として公開されることになった屋敷跡の見どころは、まず堂々としたその正面屋敷門である。向かって左側に門番の部屋、右側には訪問客の供の者が待つ部屋がある。フランス積みといわれるレンガ造りで、県指定文化財となっている。レンガ積みと三和土積みが併用された塀、北土蔵等明治の薫り漂う建物が残っている。展示室では赤松家伝来の源氏物語図屏風を始め、槍、食籠の他勝海舟や徳川家達直筆の書も見ることが出来る。又、和風庭園には多くの木々や季節毎の草花が、自然のままに風にそよいでいる。

ゆつくりと、干菓子やいわた茶をいただきながら風景を眺め、遙かな時の流れに思いを馳せてみてはいかがだろうか。教科書でしか知らなかった日本の夜明けに活躍した人達を、きつと身近に感じられることだろう。

入館料 無料
開館時間 午前9時〜午後4時30分
休館日 月曜日
（祝日の場合は翌日）
祝日の翌日
（土・日・祝日の場合は翌日）
煎茶 300円
12/29 1/3

ふるさと 故郷の周辺をたずねて

文：赤松家 袴田悦子(高16回)
福王寺 鈴木小英(高5回)

挿画：村松孝記(高24回)



(静岡縣立見付中學校プール開實況)

古い歴史を持つ福王寺

風祭山福王寺は一四四四年、荒廃していた真言宗の寺を曹洞宗として天翁義一によって開創された。本尊聖観音像は平安末期の密教彫刻で廃寺の埃の中から発見された。又平安期の陰陽師・安倍晴明の折橋丘が伝承され、四月八日に晴明祭が受け継がれている。

戦国時代、今川氏と斯波氏との見付合戦の折、今川氏が当寺に参陣し、梵鐘を兵器に鑄造。元禄時代に再鑄したが、明治維新の学制施行にて郷土の坊中学校建立に献納、明治39年に三度目の鑄造の梵鐘も太平洋戦争に供出、戦後、四度目のものが「平和の鐘」として現在時を告げている。

総門入口の石垣の切石は家康



が城山球場に築城したが地の利が悪いと放棄し、浜松へ変更した折、貰い受けたものと云う。

古文書類は明治の廃仏毀釈に際し大半を焼却したが、納戸の限に放置されたものが若干現存している。昭和になって発見された「江月堂門人覚」により安政五年、当寺に寺子屋があったこと、及びその規模が判明した。寺子屋は明治の学制で消滅し、昭和初期、日曜学校として再生。太平洋戦争で廃止されたが高齢化社会の生涯学習の場として現代の寺子屋を担って再建し、「江月堂」を襲名。一階は江戸時代の寺宝を陳列、二階は学習室、文庫となっている。寺子屋江月堂の創立者、仙嶺和尚の墓は門人達によって建てられたもので銘がある。

市の文化財指定は本尊の聖観音と境内の樺と竹林の中のヤツシロランである。古い物としては本堂（一七四二）と総門（一八六八）と江戸初期の沼薬師がある。その他、国道一号線整備の際、露見された今川の墓、及び家臣の一石五輪塔が移設されている。

福王寺には数多くの伝承が残されており、『福王寺物語』として収録、発行され小学校の課外学習の教材に供されている。又福王寺史も先の古文書と共に編集発行され、南高のOB文庫に収納されている。

江戸時代の石高は十二石八斗末寺は十四ヶ寺あった。

袋井養護学校を訪ねて

「死」と向き合い「生きる力」を

梅雨の合い間の晴れた日、私たち編集委員は袋井養護学校の校長先生村松智恵子さん(高20回)を訪ねました。朝、バスで次々と子供たちが登校。大きな声で、おはようございます。目が輝いていました。

校長先生も一人一人声をかけます。最近こんなにも元気で活刺とした光景を見たことはありませんでした。そして授業の教室、職業訓練の様子等を見させていただき、次のお話を伺いました。

カナさんは中学生でも体重八キロに満たない重度の障害児でした。笑顔で下校した翌日、突然にかえらぬ人となりました。タカシ君は、「僕一番になりたい」と言っ百メートルを走った後、人工呼吸や心臓マッサージの効果も無く亡くなってしまいました。果も無く亡くなってしまいました。白血病であと数ヶ月といわれたジュンくんは、家族の看護で一年も生き抜きました。

養護学校では、子供たちの死と出会うことは珍しくありません。しかし、一年間に三人もの子供を見送ることは想像もできないことでした。なぜ、この子供たちはこんなにも早く一生を終えてしまったのだろうか。一年で返す一年でしたが、どの子も重度の障害や病気をもっていたのに、家族はもろろのこと周りのみんなに、地位や名譽ではなく、優しさや精一杯生きる価値を教えていきました。私はこんなにも充実した一生が終えられるだろうか。「彼らのように生きたい」が、目標になりました。



村松校長先生

書大杉弘子(高18回)



「命」人が礼冠を着けて神の啓示を待つ姿。

特集「命」

本年は「命」をメインテーマとして取り上げました。このテーマは幅広く、健康、環境、スローライフ、防災、介護など我々の身近にあるものが多く、焦点を絞るのがむづかしくもあります。また戦後60年が過ぎ、戦争を知らない世代が多くなっていくことから、これを実体験した先輩から後輩に伝えていくことは貴重なことと思います。(寺田政善)

彼らからは、人としての生き方、命の尊厳を教えられます。コミュニケーションは、言葉ではなく心だと教えられます。そして、私の役目は、彼らが与えられた命を精一杯生きるための関わり、支援をすることだと考えます。

教育実習生や体験学習で本校に来る生徒や学生たちは、初めは未知の世界への不安で一杯ですが、どんどん子供たちの魅力(人間性)に引き付けられ涙して帰って行きます。障害児は、一般の方には遠い存在かもしませんが、実は、人としての生き方をわかりやすく

示す役割を担っているのではないかと思います。なぜ、この仕事に携わってきたのか。それは、この教育が個々のニーズに基づいた創造的な取組であること。子どもたち

から「生きるエネルギー」をもらっているから。私たちは何故かとても爽やかな気持ちでした。(取材 袴田悦子・原田康代)

磐田南高校の詩「童謡『ありがとう』」



指揮をとる橋本さん 左上は故・坪井さん

橋本さんにはぐま会館に来ていただき、お話を伺いました。

「ありがとうの言葉は一つだけれど、ありがとうの心はかぞえきれない!... 太陽にそよ風に小つぶの雨に/地球のみんなにありがとう」

童謡詩人の故・坪井安さん(高13回)作詞の童謡「ありがとう」が、大きな共感の輪を駆けつづつ教育的に高く評価され、全国から海外にまで広まるうとしている。そのかけ橋となっているのが、橋本

まで話題が飛んだという(22号参照)。しかし、坪井さんは、この出会いからわずか9ヶ月後、病に倒れられ帰らぬ人となった。坪井さんの童謡は、橋本さん率いるコーラスグループ「JA掛川市ハツラズ」に歌い広められ、特に「ありがとう」は、ハツラズの持ち歌となった。

念願の高知公演では、かつて坪井さんと交流があった歌手の大庭照子さんと運命的な出会いをした。

今年2月27日、ハツラズ10周年記念、ありがとうコンサートが、大庭さんを迎えて奇しくも坪井さんの命日(七回忌)に開催された。県内はもとより高知や東京などから700人を超す大盛會の中、共に汗した陸上部13回生がステージに上がり、伊藤修二さんが親友坪井さんの思い出を語った。また、8月12日には、ロサンゼルスと掛川でのコンサートで歌われ、世界に向けて同日発信された。

橋本さんは「坪井さんの詩には、磐田南高校のおいがする。『ありがとう』が楠馬イズムを立ち上げらせ、同窓の縁を掘り起こし、絆を深めているのではないかと。坪井さんのもう一つの詩

散策中美しく光る紫陽花に出合った。短い命の間にすい分多くの人を癒し、感動させる。灼熱の

を宿命として人は持っています。だから出会いの時から、このことを心得ていることが大切だとい

太陽の下で耐え、文句一つ言わず咲いていた。人間は我が儘三昧だ。たった一輪の花の強さを知るべきである。

毎日のように、殺人のニュースを聞く。いじめ、男女問題、金銭関係と原因は様々である。基本的な教育が不十分なまま成長し悩みと対決することになり、相談する相手が無いからすぐ極限に達することに。メディアは問題解決とは程遠い報道を繰り返している。この問題は確かに難しい。私なりに考えてみた。「四苦八苦」の中に「怨憎会苦」というのがある。人は生まれた時から嫌な相手と出会う宿命があり、この苦しみから決して逃れられない。

だから、これを回避する智慧を平常心として養っておく必要があるのです。また「愛別離苦」というのがある。どんなに愛する相手とも、何時かは必ず別離と対面しなくてはならないという苦しみを

命・処世教養

青島公悦(高12回)

うことです。

感情が極限に到る前に、問題を回避するために、精神を落ち着かせて考えたい。「独座大雄峰」の自問自答のような境地を、ゆったりと持つことが重要だ。

そのために、目的を明確にして、自己実現に向って障害事項を探求し、その障害解決のための方策を早くから勉強し、修得しておくことが「命」を守る解決策の一つでありましょう。

老子の言葉に「難きを其の易きに因り、大なるを其の細に為す」とある。困難なことはそれがまだ容易なうちに手段を考える、大きなことはそれがまだ小さい内に解決してしまうのがいい。難事・大事は些細なことから始まるので、初期の内に対策を講ずることが得策と思ふ。

一握の砂の如き人生、月のように時々丸くなればいい、ゆっくり行きたいものだ。所詮人生四苦八苦から逃れられない。

「命」

寺田宏治(高9回)

私の愛読書である貝原益軒の「養生訓」総論の書き出しに、「人の命は天からの授かりものであり、自分のものではない。天命なれば、人の力の及ぶところではないが、人事を尽くして、天寿を全うすべきである。」と述べています。

現代人にとって最高の健康読本である「養生訓」を学び、その教えを生活に役立てようとしていた矢先に、皮肉にも病に侵されてしまいました。人生を楽しく、身体に「好い加減」の仕事をしよと、第二の人生に入った六十三歳の二〇〇一年夏、腎臓癌を告知され、忘己利他の人生を歩み始めたばかり

命(命)とは、「この世を支配する天の命令の意」。この世の定め人の「いのち」意とあります。(旺文社漢和辞典)

まさしく命は天の命、定命です。今の自分は、この定命を認識し、生きる事は如何に死ぬかという「生死一如」の気持ちで、常に生かされている事に感謝し、寿命を大切に生活しています。

無神論者であった自分が、朝な夕なに神仏に合掌し、朝には一日の無事を、夕には生かされた一日の感謝とお礼の毎日です。

「住み果てぬ世に、みにくき姿を待ちえて何かはせん。命長ければ辱多し。長くとも、四十(私は七十)に足らぬ程にて死なんこそ、めやすかるべけれ。」(徒然草第七段)の心境です。

洋子さん(高14回)である。

二人の出会い、平成12年5月。同窓会だよりの編集に係わっていた橋本さんが、坪井さんを取材したことによる。それまで見ず知らずの二人が「南高大好き」で意気投合。母校への思いは、初代校長尾崎楠馬先生の「建学の精神」によるもの、と考えが一致し、先生の故郷高知に

「出会い」が、パワーの源になっている」と熱く語った。

「出会い！この不思議なドラマはノある日突然やってくるノ出会い！この不思議な力はノ目の前の見えない扉をあけてくれるノ……」

熱く燃える橋本さんの情熱を感じました。

(取材 袴田悦子・原田康代)

私の中学生時代

昭和16年入学、柏原博一(見中20回)

私の入学は昭和十六年四月。

黒の制服に黒の学生帽、長ズボンの膝下には幅十センチ位のゲートルを巻き、黒の皮靴を履いて登下校をした。途中で先生に出会えば、その場で停止して拳手の敬礼をした。また、上級生へは歩行しながら敬礼をしたが、毎日緊張の往復であった。

登校後は昇降口で靴と靴下を脱ぎ、終日裸足で過ごすことになつていった。

部活動は小さい頃から憧れていた「グライダー部」へ入部した。平日は運動場で、土日は塩新田海岸(福田)で訓練が行われた。

ここでも上級生の指導はかなり厳しかったが、帰りには当時は出入りが禁止されていた駄菓子屋への立ち寄りも大目に見てくれたので、それがなによりの楽しみであった。

昭和十六年(一九四一)十二月に始まった「太平洋戦争」は激化の一途を辿り、授業内容に

も次第に影響が現われてきた。

特に英語の時間数は、敵国語であるとの理由で大幅に削減された。もう一つは、食糧増産のために、農家への勤労奉仕があり、授業は休止された。

そして、昭和十九年八月からは「学徒勤労動員」で、学業を中断して名古屋の三菱重工業での工場勤務が始まった。

十二時間労働の昼夜二交代制で、特に厳冬の夜勤は辛かった。卒業式は工場の食堂で行われ、学業は一年短縮されて四年で終了となった。

その間には連日にわたるアメリカ軍飛行機による空襲で逃げ回ったり、東南海地震にも見舞われるという生死の境を彷徨つ経験もした。しかし、一人の犠牲者も出さずに帰郷できたのは、奇跡というほかはない。

時々訪れる京都への旅の途中、車窓から眺める工場の姿は感無量である。



目的

両校相互の交流を通して親善関係を一層緊密にし、日米両国の友好と教育・文化の発展に寄与する。

佐藤正明先生(高28回)からマウンテンビュー高校生との交流の思い出が寄せられました。

マウンテンビュー訪問記

教諭(高28回生) 佐藤正明

マウンテンビュー市、そしてマウンテンビュー高校は素晴らしいところでした。街も施設も、もちろん人々も。

バスが学校に着くや否や大勢の生徒がバスを取り囲み、すぐに交流が始まりました。早速、生徒の代表が学校の施設を案内してくれ、その後、歓迎式典が開かれました。これには校長先生、教職員、保護者の方だけでなく、市の教育委員会や市長さんも参加していただき、いかに私たちを歓迎してくれているか、そして、いかにこの交流事業を重要視していただいている

かがわかりました。

その後、マウンテンビュー高校の先生方が我々引率者を自宅のパーティに招待してくださいました。校長先生と教育委員会の方も交えて昼食に連れて行ってくださったりと大歓迎していただきました。

生徒たちも、ホストファミリーに非常に親切にしてくださいました。感激、感動の連続であったようです。

今回この交流研修に本校の英語科の教員として、また卒業生として参加させていただき、マウンテンビューの人たちの温かさ、この事業にかける熱心な思いに直に触れ、今後ますますこの交流を盛り上げ、両校の絆をさらに強固なものにしていかなければならない、と実感しました。



21 HR 坂口友美子

英語を第一言語とする国に滞在して、英語はことばだと実感した。日本は多くの国の中の一つにすぎなくて、アメリカも例外でなく、言葉や文化が違っても、同じ人類が住んでいて、違いが目立つくらい、その他は「同じ」である。細かい違いは当たり前で、むしろその根底にある「同じモノ」に驚かされた。

25 HR 笹野拓人

全てが驚きで、楽しくて、全ての人が最高で、そんなアメリカに本当に感謝している。そして次はホームステイを受け入れる番だ。日本のよさをしっかりと伝え、楽しんでもらい、帰る時には僕と同じ気持ちになってもらえるよう頑張りたいと思う。

28 HR 竹内悠太

僕が日本語を教えてあげると、何度も練習していた。そして次の日片言の日本語で話しかけてくれたのだ。とてもうれしかった。にもかかわらず、たまに英語に思うように返答出来ない自分がいたことには本当に嫌

気がさした。しっかり英語を勉強して行けば、と後悔の気持ちがつつのるばかりだった。



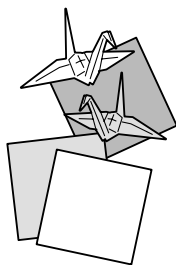
31 HR 加藤恵一

アメリカの人は日本についてよく知っているなあと思ったが、同時に僕はとても恥ずかしかった。なぜなら、アメリカについて自分はまだあまり詳しく知らないからである。僕はホームステイ中に何度も英語を含めてもっと準備をしておけば良かったと思う事があった。もっと知識があればこのような間違いはしなかったし、英語がもっとできればもっと会話はずみ楽しかったかもしれない。しかし、通じ合わ

ないから互いに苦労するということも良い経験であると思う。

33 HR 太田有香

日本を離れてみて日本のすばらしさに気付いた。日本にはアメリカにはない、長い歴史がある。そんな文化や歴史をこれからもっと学びたいと思う。そして次、外国に行く時には誇りをもって日本の紹介ができるようになりたいと思った。



過去二年間の大学合格状況

(数字は過年度卒を含む合格者延べ数)

国公立大学	18年度	19年度	私立大学	18年度	19年度
北海道	4	1	文教	9	14
東北	2	2	青山学院	8	15
茨城	4	3	学習院	1	0
筑波	6	3	北里	2	10
宇都宮	5	1	慶応義塾	12	16
群馬	2	1	国士舘	2	2
埼玉	3	2	駒澤	6	11
千葉	11	12	芝浦工業	20	14
お茶の水女子	0	0	上智	2	5
電気通信	1	2	成蹊	3	2
東京	5	2	成城	3	2
東京外国語	0	2	専修	13	13
東京学芸	2	4	中央	38	39
東京工業	2	2	津田塾	3	1
東京農工	4	1	帝京	4	1
一橋	1	4	東海	6	4
横浜国立	9	9	東京女子	7	7
新潟	2	2	東京電機	3	3
富山	1	3	東京農業	7	7
金沢	3	8	東京理科	25	31
福井	1	2	東洋	6	2
山梨	4	2	日本	21	13
信州	4	1	日本女子	4	5
静岡	12	13	法政	22	26
人文	16	21	武蔵工業	2	4
教育	1	3	明治	24	35
理工	14	12	明治学院	11	16
工農	4	1	立教	16	11
情報	5	2	早稲田	26	21
浜松医科	1	2	神奈川	15	10
医看	2	2	金沢工業	4	3
名古屋	8	16	岐阜聖徳学園	5	6
名古屋工	3	6	静岡文化芸術	14	15
三重	5	0	静岡理工科	3	0
京都	2	8	聖隷クリスファー	7	16
大阪	8	2	常葉学園	17	22
大阪外国語	3	1	愛知	12	11
神戸	2	2	愛知医科	2	1
奈良教育	1	1	愛知学院	4	3
奈良女子	1	1	愛知工業	5	7
鳥取	1	1	中京	11	16
島根	1	1	南山	17	37
岡山	2	0	日本福祉	8	4
広島	2	5	名城	24	14
香川	1	0	京都外語	9	3
愛媛	2	0	同志社	17	22
九州工業	1	0	同志社女子	4	14
琉球	1	1	京都女子	5	19
首都大学東京	1	0	立命館	56	48
横浜市立	4	4	関西	22	25
都留文科	3	0	関西外語	1	1
山梨県立	3	3	近畿	7	8
静岡県立	5	8	関西学院	15	11
名古屋市立	4	3	その他の私立大	108	128
その他の国公立大	17	54	私立大計	696	755
国公立大学計	213	242	国公短計	3	3
文部省所管外	2	2	私立短計	5	2
防衛大学校	0	0	短期大計	8	5

在校生の活躍

- 陸上部
 - 平松巧至
 - ・100m 県大会2位 東海大会4位 全国大会出場
 - ・200m 県大会6位 東海大会出場
 - 天方洋介
 - ・100m 県大会6位 東海大会出場
 - 4×100mリレー 県大会3位 東海大会出場
 - 弓道部
 - 団体女子 県大会3位 東海大会出場
 - 水泳部
 - 県大会優勝 東海大会出場
- 水球部
 - 全国大会出場
- 囲碁部
 - 団体 県大会優勝 全国大会出場
- ビジュアル部
 - 写真部門
 - 個人 西井杏奈
 - 教育長賞 全国大会出場
 - 団体 最優秀学校賞
- 地学部
 - 自然科学部門
 - 高文連会長賞 (山下 優・杉浦太亮 加藤義宣) 全国大会出場



和の心 贈ります
菓子勇本店 
 いわたブランドのお店です

5代目店主 山田 清次(中21回)
 山田 佳幸(高28回)
 磐田市坂上町2988 TEL・FAX 0538-32-3340

総合建設業



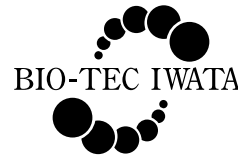
ISO9001 14001認証

石川建設株式会社

磐田市今之浦5丁目1-1
 TEL (0538) 36-0021

地域に密着した医療を目指します
 内科・小児科 **木佐森医院**

院長 木佐森正樹(高25回)
 〒438-0077 磐田市国府台55-1
 TEL.0538-32-2555
 一般及び寝たきり老人 往診応需
 禁煙治療(保険可)



磐田化学工業株式会社

本社 〒438-0078 静岡県磐田市中泉3069番地 TEL(0538)35-5100(代)



処方せん受付 マイクロダイエット

国府台薬局 ファミリー薬局

(二之宮)

磐田市国府台94-3 TEL 35-2175
 鈴木麻里奈(高38回)



応援します あなたの笑顔

磐田信用金庫

〒438-0078 静岡県磐田市中泉578番地1
 TEL.0538-32-5110(本部)
 TEL.0538-32-5111(本店営業部)
<http://www.iwashin.co.jp/>



シキ写真館

椎木 宏(高2回) 椎木 厚(高3回)
 椎木泰行(高6回) 椎木雅章(高33回) 椎木隆太(高37回)
 本店/磐田市加茂川通り Phone(0538)32-6435
 浜松店/ホテルコンコルド浜松3F Phone(053)452-1231
 愛野店/フォスタジオアムール Phone(0538)43-5225

磐田脳神経外科病院

24時間いつでも診療します。脳ドック検診受け付けは随時

院長 金子的 実(高21回)

〒438-0086 静岡県磐田市見付1766番地の1
 TEL (0538) 34-1111 FAX (0538) 32-1441

<http://www.iwatanoge.com>

あなたのホームグラウンドバンク - 地域とともに夢と豊かさを広げます。



SHIZUOKA BANK

SHIZUOKA BANK

中部カンパニー長 常務執行役員 鈴木 一雄(高24回)
 西部カンパニー長 常務執行役員 大津 善敬(高23回)
 名古屋支店長 執行役員 平野幸次郎(高24回)

うとろ薬局アルファ

保険薬剤師 宇藤 敬行(高21回)
 宇藤 陽平(高48回)

磐田市大久保537の8

TEL:0538-38-0301 FAX:0538-38-0391

有限会社 城山不動産

磐田市城之崎3丁目4-18 TEL 0538 35-8222(代)
 FAX 0538 35-8597
 代表取締役 鈴木 克三(高15回)

株式会社 **エマ観光**

総合保険 代理店(有)イーエムエイパートナー

江間金作(高5回)
 江間治人(高31回)
 江間和人(高33回)

本社 / TEL 0538-58-1234
 磐田支店 / TEL 0538-37-5555
 浜松支店 / TEL 053-414-6088
 ホームページ: www.emakanko.com

NAC ナックフィーディング株式会社

本社・工場 〒438-0002 静岡県磐田市大久保117-3 TEL.(0538)38-2666[代表]
刈谷営業所 〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町1-5-2 TEL.(0566)63-5636
<http://www.nacweb.co.jp>

代表取締役社長 **深見康弘** (高15回)

人・住まい・環境の最適調和がテーマです。

セキスイハイム® セキスイツユーホーム

セキスイハイム東海株式会社

浜松市中区板屋町111-2(アクトタワー25階) 〒430-7725
TEL:053-453-4560 FAX:053-453-4537
ホームアドレス <http://www.816t.jp>

美しい水環境を創造する

BANNAN 磐南浄化槽(株)

木戸智弘(高34回)

磐田市下岡田358-2 ☎36-0051 FAX 37-6622

ヤマハ(株) 特約楽器店

(株) 創 楽 社

石川 勝康(高25回)

tel:0538-32-9035 fax:0538-35-0568
<http://www.sohgakusya.co.jp/>

ブランドリサイクル



西伊場店
磐田店
掛川店

金・ブランド買取専門店



浜松高林店

楽しく
パソコン始めよう!

パソコン教室 (初心者&資格)

わかるとできる

高林校・向宿校・今の浦校・袋井校

株式会社

ピックアップジャパン

本部 磐田市今之浦3-4-2

URL: <http://www.pickup-japan.com>

いつも、コミュニケーション。

地域とともに90余年、
心の通うおつきあい。



企画・デザイン・印刷・ホームページ
株式会社 **大進堂**

〒438-0016 磐田市岩井2295

☎0538-32-9165(代) ☎0538-35-3720
www.taishindo.co.jp

ネジ 小物部品・締結部品・精密ネジ部品 ISO9001 認証取得 ISO14001

株式会社 マルイチ

代表取締役 **安間信義**(高7回)

専務取締役 **安間浩彦**(高33回)

取締役 **松島孝久**(高17回)

本社 〒430-0898 浜松市南区瓜内町540
TEL(053)441-4684(代) FAX(053)441-3452

大和染工株式会社

本社 〒430-0806 浜松市中区木戸町3-1 TEL(053)461-2121(代)
磐田工場 〒438-0058 磐田市万正寺5 TEL(0538)35-6511(代)

代表取締役社長 **古田道生**(高19回)

ISO9001・ISO14001 認証
<http://www.dywa.co.jp/>



超広域反発。
マルチフェースで、
さらなる飛びの進化形へ。



ヤマハゴルフ 0120-808562 <http://www.yamaha.co.jp/product/golf/> ヤマハ株式会社



SLEルール適合モデル
2013年現在
公式競技で使用できます

TK 株式会社 タニコー

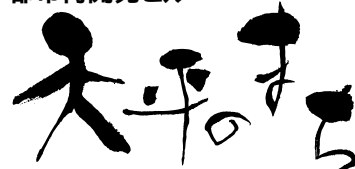
高33回 **水谷眞啓**
高33回 **青山光男**(旧姓 金原)

磐田市南平松5番地 TEL 0538-67-1880(代)
mizutanim@taniko.co.jp FAX 0538-67-1881
<http://www.taniko.co.jp>



ご協賛ありがとうございました。

都市再開発ビル



青島 公悦
元場 宣雄
吉澤 邦彦
堀井 俊秀

株式会社 **サンセップン**

磐田駅前 TEL.0538-36-5670 FAX.0538-33-1047



会計報告



平成19年度磐田南高校同窓会会計予算

収入 平成19年4月1日～20年3月31日 (単位:円)

科目	金額	備考
同窓会入会金	3,620,000	平成19年3月卒業生362名分
預金利息・配当金	32,957	
寄付金	200,000	卒業40周年寄付金(高19回生)
雑収入	300,000	同窓会報告代等
前年度繰越金	437,358	
合計	4,590,315	

支出 (単位:円)

科目	金額	備考
会務費	1,880,000	
会議費	350,000	役員会・評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	500,000	同窓会総会・慰霊祭費用等・卒業70記念メダル費用
支部総会・年次運営費等	600,000	支部総会助成・祝儀・旅費等
慶弔費	250,000	転退職饗別・慶弔費等
事務費	150,000	通信費・事務費等
事務局費	30,000	人件費・交通費
事業費	2,550,000	
はくま学生会助成金	0	大学在学生の会への助成
卒業記念品代	220,000	校章入り印鑑
会報発行費	2,000,000	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	130,000	東海大会等出場選手激励金
名簿関係費	0	卒業生氏名の名簿入力費
諸費	200,000	ホームページ運営費
積立金支出	0	
予備費	160,315	
予備費	160,315	
合計	4,590,315	

平成18年度磐田南高校同窓会会計決算

収入 平成18年4月1日～19年3月31日 (単位:円)

科目	金額	備考
同窓会入会金	3,600,000	平成18年3月卒業生360名分
預金利息・配当金	33,407	
寄付金	200,000	卒業40周年寄付金(高18回生)
雑収入	331,470	同窓会報告代・雑収入等
前年度繰越金	1,149,279	
合計	5,314,156	

備考:平成19年3月卒業生同窓会入会金(362名)3,620,000円は2/27(火)に入金されていますが、平成19年度分収入とさせていただきます。

支出 (単位:円)

科目	金額	備考
会務費	1,877,597	
会議費	347,296	役員会・評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	543,880	同窓会総会・記念メダル代・慰霊祭費用等
支部総会・年次運営費等	585,360	支部総会助成・祝儀・旅費等
慶弔費	220,329	転退職饗別・慶弔費等
事務費	145,732	通信費・事務費等
事務局費	35,000	人件費・交通費
事業費	2,499,201	
はくま学生会助成金	0	大学在学生の会へ助成
卒業記念品代	218,220	校章入り印鑑
会報発行費	1,942,246	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	149,000	東海大会等出場選手激励金
名簿関係費	0	卒業生氏名の名簿入力費
諸費	189,735	ホームページ運営費
積立金支出	500,000	
別途積立会計へ	500,000	
予備費	0	
次年度繰越金	437,358	
合計	5,314,156	

別途積立金会計		名簿特別会計	
1.一般会計の定期預金	10,003,607	定期貯金	
2.終身会費等の積立金	45,047,257		1,088,594
3.磐田信用金庫への出資金	1,000,000	普通預金	
4.諸事業用予備金	1,043,789		4,817,985
合計	¥57,094,653	合計	¥5,906,579

平成18年度会務報告

- 4/1 母校新入生オリエンテーション(会長出席)
 - 4/2 同窓会だより第28号編集委員会(以後毎月継続して会合)
 - 4/6 母校入学式(会長、副会長、監査役出席、同窓会名簿販売)
 - 4/26 マウンテンビュー高校歓迎会本校体育館
 - 4/27 マウンテンビュー高校引率者との交流会
 - 4/29 磐田支部総会(会長、校長出席)福祉センター
 - 5/10 校内幹事会
 - 5/18 PTA・後援会・同窓会役員総会と懇親会
 - 5/24 平成18年度会計監査 役員会役員と校内幹事との懇親会
 - 6/2 卒業50周年記念事業(高9回)母校に20万円寄贈
 - 6/14 同窓会役員選考会
 - 6/19 評議委員会・役員会はぐま会館
 - 6/29 役員会、総会当番年次(高37回)代表との打合せと懇親会
 - 7/23 袋井支部総会(会長、校長)市総合センター
 - 7/24 役員会
 - 8/19 総会事前打合せ会(役員、担当年次、校内幹事)慰霊祭(高28回担当)準備
 - 8/20 慰霊祭(高28回担当)、第30回同窓会総会(高37回担当)卒業40周年記念事業(高18回)同窓会に資金援助
 - 9/9 関西支部総会(会長、校長出席)ホテルライパー
 - 10/3 静岡支部総会(会長、校長)クーポール会館
 - 10/10 同窓会だより第28号発行
 - 11/2 役員会、母校SSH記念講演会長谷川真里子先生
 - 11/11 関東支部総会(会長、校長出席)喜山クラブ
 - 1/20 役員会、総会当番年次(高37回)打合せ会
 - 2/17 豊田支部総会(会長、校長)熊野伝統芸能館
 - 2/28 高校59回同窓会入会式(会長、副会長、監査役出席)
 - 3/1 高校59回卒業式(会長、副会長、監査役出席)
- 平成19年3月20日から30日MV高校訪問



イラスト 寺田弥生(高49回)

次号をお楽しみに

平成19年度各種当番年次

- 卒業10周年
高校48回生(新年次委員選出)
- 卒業20周年
高校38回生(総会担当)
- 卒業30周年
高校29回生(慰霊祭担当)
- 卒業40周年
高校19回生(同窓会に資金援助)
- 卒業50周年
高校10回生(母校に資金援助)

平成19年度校内幹事役割分担

- 総括 高木綱一、松本勝彦、磯部豊彦
- 役員会 高木綱一、松本勝彦、永田 淳
- 庶務 高木綱一、松本勝彦、澤井智ひろ、小澤美穂、鴨藤忠博
- 会計 永田 淳、大沢健一
- 名簿 佐藤正明、林 研光
- 慶弔 佐藤正明、林 研光
- はぐま会館 大沢健一、松本勝彦
- 同窓会だより 大塚義郎、駒形一路、小澤美穂
- 総会担当 磯部欣宏、小杉友祐
- ホームページ 鈴木敏彦、駒形一路、大沢健一

- 編集委員
- 山下 六機(高9)
 - 鈴木 昭次(高12)
 - 寺田 政善(高15)
 - 袴田 悦子(高16)
 - 高橋耕太郎(高18)
 - 原田 康代(高20)
 - 横井 純夫(高23)
 - 杉本富貴子(高33)
 - 小澤 美穂(高49)

保存しやすいようにとA4版にしたりと新しい試みをしました。これまでの誌面と変わったなと思われる方もおられるかもしれませんが、至らぬ点など同窓生のみなさんからご意見をいただけたら、今後の誌面作りにかします。よろしくお願いいたします。

(寺田)



編集が初めてで不慣れな委員が多く、編集委員会を昨年の11月にスタートしてここまでたどり着きました。メインテーマ・業界で活躍する同窓生・故郷の周辺をたずねてなどをシリーズ化していますが、寄稿やインタビューに揮毫や挿画を加えた誌面は多くの同窓生の皆さんのご協力の賜物です。ありがとうございました。